



基本構想・基本計画策定の目的・経緯

目的

三田市立上野台中学校・八景中学校の統合に伴う統合中学校を新設するにあたり、これまでの経緯や両校の現状、社会情勢の変化、並びにこれからの新しい時代の学びの姿、本市の上位計画・関連計画等を踏まえ、新統合中学校の整備に関わる基本的な考え方の方向性を基本構想として示します。さらに、基本計画では、基本構想を踏まえ、新統合中学校における各種条件や機能を整理するとともに、具体的な施設規模、配置、平面計画等を検討するなど、設計業務に向けた基本計画を策定することを目的とします。

これまでの経緯

H29.7	・三田市立学校園のあり方審議会設置
H30.3	・三田市立学校園のあり方審議会 答申
H30.7	・三田市立学校のあり方に関する基本方針 策定
H30.12	・三田市立学校再編計画（第1次計画） 策定 （行政案:両校を再編統合し、八景中学校区内に新設）
R.元 12 ～ R3.12	・三田市立上野台中学校及び八景中学校再編地域協議会設置 ・全体会4回、各校区部会5回×2校区、中間まとめ報告会、全世帯アンケート実施 ・第4回地域協議会(全体会)にて、行政案に賛成することを主旨とする「最終まとめ」
R4.3.24 (総合教育会議)	・地域協議会の「最終まとめ」を受け、両校を統合し、八景中学校区内に新設することを市として正式決定
R4 年度～ R5 年度	・候補地の調査、選定のため市内部で組織を横断するプロジェクトチームを設置、検討 ・専門的、客観的な観点から候補地の調査、選定を行うため、外部機関に委託、内定
R6 年度	・用地補償等基礎調査(決定)、基本構想、基本計画の策定にかかるアンケート調査の実施 ・関係者、関係機関等との調整

社会情勢の変化

現代は、超スマート社会(Society5.0)の到来を間近に控えるとともに、グローバル化の大きな波の中で、変化が激しく先行きが不透明な「予測困難な時代」となっています。このように急激に変化する時代の中で、学校教育では、子どもたちが自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を尊重し、協働しながら社会の変化を乗り越え、自身の人生を切り拓き、たくましく生き抜く力を育てることが求められています。

新しい時代の学びの姿

・主体的・対話的で深い学びの実現のため、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に取り組み、教育の質をさらに充実させるよりよい環境づくり

新しい時代の特別支援教育

・一人一人の教育ニーズに的確に応える指導ができるように、通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校の連続性のある多様な学びの場の充実

学校部活動の地域展開

・生徒の豊かなスポーツ・文化芸術活動を実現するために、学校・地域との連携・協働により、持続可能で多様な活動環境の整備

教職員の働く環境の整備

・「学校における働き方改革の更なる加速化」、「学校の指導・運営体制の充実」、「教師の処遇改善」等、教職員の働きやすい環境づくり

不登校児童生徒への学びの保障

・不登校の児童生徒全ての学びの場を確保し、学びたいと思った時に学べる環境づくり

学校と地域の協働

・学校と地域はパートナーとして相互に連携・協働し、コミュニティ・スクールや地域学校協働活動を推進

【基本構想】 新統合中学校整備のコンセプト

新統合中学校 のめざす教育

- ①自分の未来を拓き、たくましく生きる「確かな学力」の育成
- ②互いの多様性を認め合い、共に生きる「豊かな人間性」の育成
- ③健康で安全に暮らすための「健やかな体」の育成
- ④ふるさとを愛し、「誇り」を持って生きる人材の育成



施設整備 基本方針

- ①生徒の主体性・可能性を引き出す学校づくり
- ②安全安心でみんなが通いたいと思える学校づくり
- ③心身の調和のとれた発達を促す学校づくり
- ④三田らしさの中で郷土愛を育む学校づくり

具体的な施設整備の方向性

- ①多様な学びに柔軟に対応できる学習環境
 - ・多様な学習に対応できる普通教室、オープンスペース、ICTの効果的な活用等
 - ・教科の専門性を活かした特別教室
 - ・放課後等いつでも利用できる活用しやすい学校図書館
- ②インクルーシブ・ユニバーサルデザイン・ダイバーシティ等へ対応した環境
 - ・個に応じた指導ができる教育環境の整備や通常の学級、特別支援学級同士の連携がとれる教室配置
 - ・「共に生きる」心を育むために生徒同士が交流しやすい環境づくり
 - ・個別学習や相談、多様な生徒等に対応できるスペース
 - ・トイレの洋式化、乾式化、水道蛇口の非接触化等の衛生環境の向上
 - ・ユニバーサルデザインや多様な性を考慮した施設整備
 - ・利用しやすいエレベーターの配置や段差のないフロア
- ③安全に安心して運動できる環境
 - ・各種スポーツに対応するグラウンドや体育館、武道場
 - ・常設ステージや空調がある体育館
- ④安全・安心な学校
 - ・地域の防災拠点として避難所機能を兼ね備えた災害に強い学校
 - ・防犯カメラや外部利用者の動線、利用区分の設定など、防犯対策等を備えた安全な学校
- ⑤通学や保護者利用を想定した駐車場・駐輪場の整備
 - ・歩行者、自転車、自動車の動線が明確な配置計画
 - ・スクールバスや生徒、保護者、地域の利用を想定した駐車場、駐輪場計画
- ⑥環境への配慮
 - ・学校施設の省エネルギー化や再生可能エネルギーの導入、環境教育の充実の推進
 - ・木材の内装利用による断熱性や調湿性に優れた温かみのある空間
- ⑦教職員が働きやすい環境
 - ・教職員が効果的・効率的に授業の準備や校務等が行える環境の整備
- ⑧地域や学校の歴史・風土を大切にする学校
 - ・ふるさとのよさや学びの成果を発信していく展示スペース等の設置

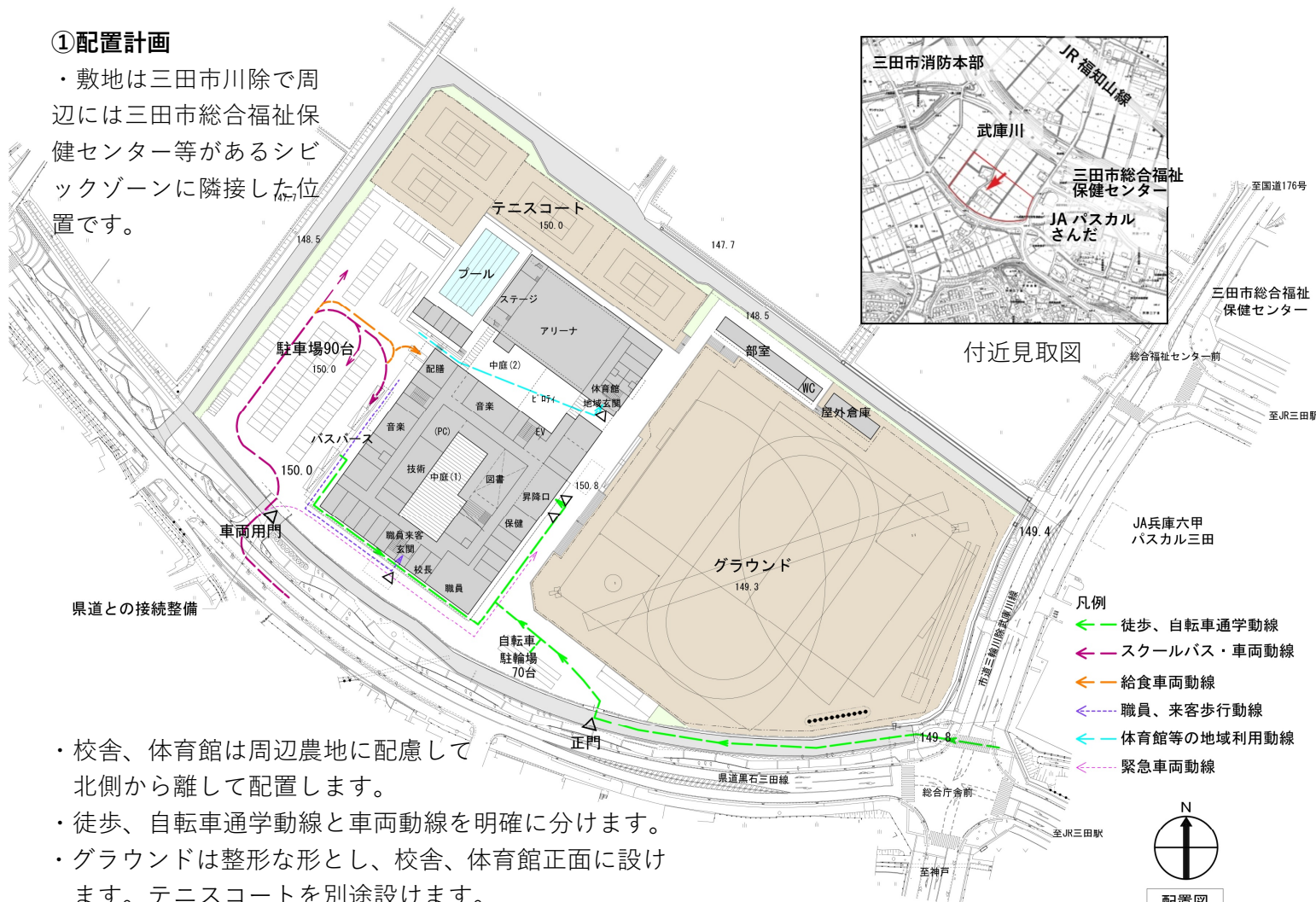
【基本計画】多様な学びに効率的に対応できる開放的な配置

①配置計画

・敷地は三田市川除で周辺には三田市総合福祉保健センター等があるシビックゾーンに隣接した位置です。



付近見取図



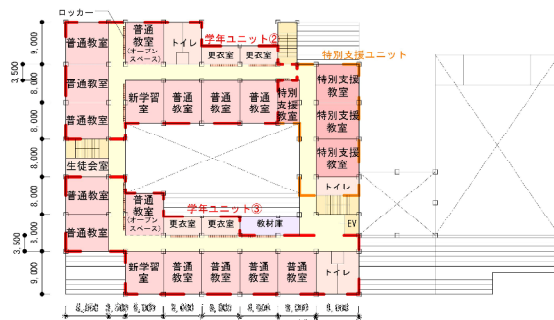
- 凡例
- ← 徒歩、自転車通学動線
 - ← スクールバス・車両動線
 - ← 給食車両動線
 - ← 職員、来客歩行動線
 - ← 体育館等の地域利用動線
 - ← 緊急車両動線



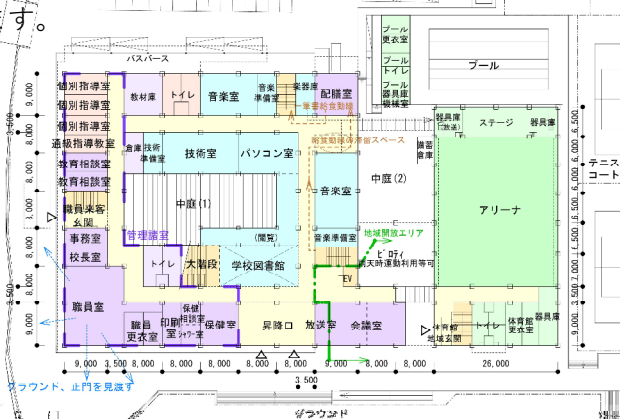
- ・校舎、体育館は周辺農地に配慮して北側から離して配置します。
- ・徒歩、自転車通学動線と車両動線を明確に分けます。
- ・グラウンドは整形な形とし、校舎、体育館正面に設けます。テニスコートを別途設けます。

②平面計画

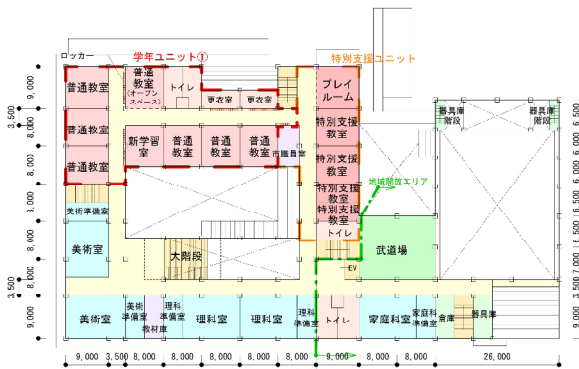
- ・1階の南側に職員室を設け、グラウンド、正門を見渡せる位置とします。
- ・学校図書館を中心に各特別教室を連続させ、教科を超えた学びを促す空間をつくります。昇降口に面して設けることで、生徒の利用しやすい環境をつくります。
- ・普通教室を中心とした学年ユニットは、2階の北西側、3階の南東側と北西側に配置します。
- ・特別支援教室は各学年ユニットに行き来しやすい2、3階の北側にまとめて配置します。
- ・体育館は1階、武道場は2階とし、校舎部分と連続して配置します。



3階平面図



1階平面図

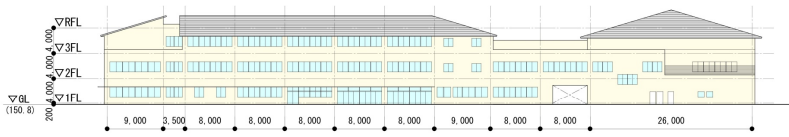


2階平面図

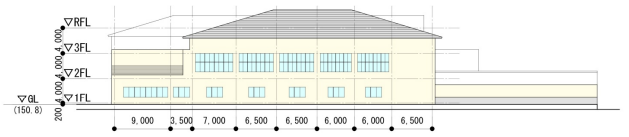


③ 立面・断面計画

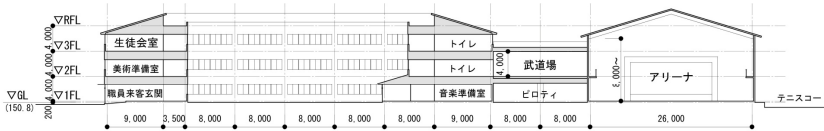
- ・ 周辺の田園風景に配慮し、校舎を3階建てとし、勾配屋根を設ける等、景観に配慮します。
- ・ 体育館アリーナの競技スペースは梁等も含めて8.0m以上の天井高さを、武道場については梁等も含めて4.0m以上の天井高さを確保します。



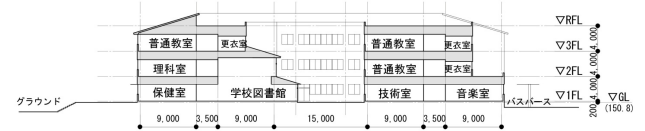
南東立面図



北東立面図



断面図①

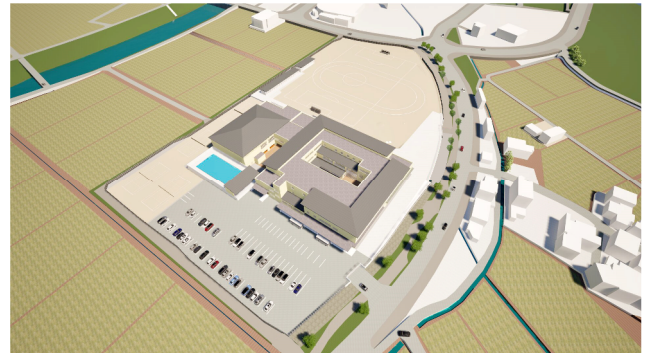


断面図②

④ イメージパース



南側から正面を望む



南西側より望む

⑤ 建築概要

- ・ 敷地：三田市川除地内 校地面積 30,291 m² 概算整備費:95 億
- ・ 規模：3 階建て 10,848 m² (校舎 8,685 m² 体育館 1,475 m² 武道場 294 m² プール諸室等 394 m²)

事業スケジュール

・ 令和7年度に「新統合中学校基本構想・基本計画」を策定し、令和8年度から設計を行い、順次造成、建築工事を行います。

・ 開校準備は、適切な時期に保護者や地域の代表による開校準備会を設置し、校名、通学路、校歌、制服等の具体的な事項を検討します。

・ なお、事業スケジュールは、現時点(従来方式)で想定している最短のものであり、今後の進捗状況により変動する場合があります。

新中学校整備事業工程(スケジュール)							開校目標年度 (令和13年度)
	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	
基本構想・計画策定	基本構想・基本計画策定)
用地測量、ボーリング調査等	用地測量・ボーリング調査等						
事業認定申請	事業認定事前協議・申請・告示						
用地・補償	地権者・関係人等への説明、契約・登記等						
基本設計・実施設計、開発協議、計画通知等		造成・建築・周辺道路等設計 開発協議、計画通知					
造成、建設工事				造成(調整池等)工事、校舎・体育館・運動場外構、周辺道路工事等		竣工	
開校準備			開校準備会設置(学校名・通学路、校歌・制服等)、地域・保護者への周知、開校行事・移転準備等				